

野菜の需給・価格動向レポート（平成30年1月15日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	12月の価格情報				1月の価格情報		1月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	1月上旬					
		中旬	下旬								
葉菜類	キャベツ	72.93	128 (176%)	165 (226%)	96.86	227 (234%)	・3.754t (66%)	愛知(51), 千葉(28)	→	愛知産は、下級品の発生も少なく、また、例年通り春作の増加が見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、12月以降の低温により生育が緩慢となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		76.91	131 (170%)	169 (220%)	92.10	235 (256%)	・1.147t (44%)	愛知(62), 大阪(9)			
	たまねぎ	83.77	84 (101%)	84 (101%)	83.77	90 (107%)	・2.749t (84%)	北海道(92), 静岡(5)	→	北海道産は、中品種の貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、1月下旬から例年通り出荷される見込み。 北海道産及び静岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		83.77	87 (103%)	88 (105%)	83.77	90 (108%)	・1.216t (78%)	北海道(82)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	136.25	287 (211%)	312 (229%)	127.15	372 (293%)	・1.232t (82%)	千葉(36), 埼玉(23), 茨城(17)	→	千葉産は、昨秋の台風の影響から生育が回復し、正品率が上昇してきていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産及び茨城産は、昨秋の台風の影響により下級品は引き続き例年より多いものの、天候が回復したことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産、埼玉産及び茨城産の出荷は平年並みと見込まれるものの、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		467.01	664 (142%)	816 (175%)	473.04	997 (211%)	・82t (56%)	徳島(30), 三重(19), 奈良(13), 高知(11)			
	はくさい	40.32	85 (210%)	104 (258%)	64.18	127 (198%)	・3.420t (91%)	茨城(87)	→	茨城産は、昨秋以降の台風や断続的な天候不順により、全体的に小玉傾向となっているものの、主産地の作付面積の増加による出荷が見込まれることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 茨城産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるものの、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		55.95	125 (224%)	134 (240%)	68.70	158 (231%)	・712t (46%)	宮崎(26), 愛知(26), 兵庫(13), 和歌山(10)			
	ほうれんそう	385.11	802 (208%)	961 (249%)	338.43	977 (289%)	・503t (75%)	群馬(27), 茨城(26), 千葉(18)	→	群馬産及び茨城産は、ハウス作の生育は概ね順調であるものの、露地作は昨秋以降の天候不順の影響で生育が緩慢になっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風後に再播種したほ場からの出荷が中旬頃に開始されると見込まれることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 千葉産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるものの、群馬産及び茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		461.74	880 (191%)	949 (206%)	375.38	964 (257%)	・131t (59%)	徳島(46), 福岡(25)			
	レタス (結球)	233.85	383 (164%)	580 (248%)	233.85	579 (248%)	・1.423t (52%)	静岡(39), 香川(12), 千葉(9), 長崎(7)	→	静岡産は、昨秋以降の天候不順による定植遅れは徐々に回復していることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷になる見込み。香川産は、昨秋以降の天候不順や低温により、正品率の低下や生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋以降の天候不順により正品率の低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 静岡産の出荷はやや少なめになると見込まれるものの、香川産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		226.75	369 (163%)	552 (243%)	226.75	553 (244%)	・315t (53%)	兵庫(46), 徳島(23), 長崎(10)			
果菜類	きゅうり	370.98	484 (130%)	502 (135%)	370.98	392 (106%)	・2.456t (107%)	宮崎(36), 高知(21), 千葉(20)	→	宮崎産は、12月からの気温低下の影響で生育遅れが見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、今後の気温低下が懸念されるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、高知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		350.33	482 (137%)	493 (141%)	350.33	367 (105%)	・917t (100%)	宮崎(46), 高知(21), 徳島(18)			
	トマト (大玉)	349.23	454 (130%)	503 (144%)	349.23	403 (115%)	・3.015t (107%)	熊本(38), 栃木(17), 愛知(16)	→	熊本産は、12月の気温低下の影響で着色不足が散見されるものの、今後は生育良好な段へ移行し収穫量が回復すると見込まれることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷になる見込み。栃木産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、12月以降の気温低下による着色や肥大不足が発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 愛知産の出荷は平年よりやや少なめと見込まれるものの、熊本産及び栃木産の出荷が平年よりやや少なめになる又は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		326.61	423 (130%)	469 (144%)	326.61	388 (119%)	・1.184t (137%)	熊本(78)			
	なす	389.03	592 (152%)	525 (135%)	389.03	403 (104%)	・851t (111%)	高知(67), 福岡(16)	→	高知産は、昨秋の天候不順による影響は回復し、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月以降の気温低下による生育や肥大遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 福岡産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、12月下旬から下げ基調となり、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		397.74	604 (152%)	512 (129%)	397.74	399 (100%)	・283t (116%)	高知(39), 熊本(27), 福岡(22)			
	ピーマン	378.83	591 (156%)	616 (163%)	578.80	602 (104%)	・516t (104%)	宮崎(47), 高知(21), 鹿児島(17), 茨城(14)	→	宮崎産は、生育は概ね順調であるものの、加温作で肥大遅れが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、12月の低温の影響により肥大遅れが見られるものの、加温作の生育は概ね順調であることから、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。鹿児島産は、作付面積は微増したものの、12月の低温による影響がみられることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、成り遅れで着果数の減少がみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、高知産、鹿児島産及び茨城産の出荷が平年並みに回復又は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		371.29	586 (158%)	577 (155%)	565.30	553 (98%)	・250t (109%)	宮崎(51), 高知(24)			
	根菜類	だいこん	67.55	126 (187%)	167 (247%)	79.03	204 (258%)	・3.017t (62%)	神奈川(55), 千葉(38)	→	神奈川産は、生育遅れがみられ、細物出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の台風などによる天候不順により、生育遅れ、品質低下が見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 神奈川産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
			76.48	123 (160%)	161 (211%)	80.47	188 (234%)	・1.312t (59%)	長崎(32), 徳島(23), 和歌山(21)		
		にんじん	105.86	119 (113%)	135 (128%)	111.16	127 (114%)	・1.941t (78%)	千葉(88)	→	千葉産は、昨秋以降の天候不順により、肥大不足で小玉傾向となっているものの、本年は豊作基調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	104.49		159 (152%)	169 (162%)	109.97	154 (140%)	・395t (60%)	鹿児島(48), 長崎(30)			

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	12月の価格情報				1月の価格情報		1月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 見通しの価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	1月上旬				
		中旬	下旬							
いも類	さといも	220.97	298	311	228.85	270	・113t (112%)	埼玉(50), 千葉(29)	→	埼玉産は、昨秋の天候不順により肥大不足で小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつにより肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		217.56	295	326	219.65	296	・45t (85%)	愛媛(47), 宮崎(19), 静岡(11)		
	ばれいしょ	96.99	99	101	96.99	102	・2,180t (111%)	北海道(66), 長崎(28)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、Lサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
96.99	90	93	96.99	99	・878t (105%)	北海道(69), 長崎(22)				

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	12月の価格情報				1月の価格情報		1月上旬の東京都・大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 見通しの価格水準
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	1月上旬				
		中旬	下旬							
洋菜類	ブロッコリー	321.75	623	774	307.40	651	・403t (61%)	愛知(32), 香川(21), 埼玉(18)	→	愛知産は、低温及び干ばつ気味で生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、11月下旬からの低温で、生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、現在の主流である中生品種は、概ね生育は順調であるものの、昨秋の天候不順により正品率が低下していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 愛知産、香川産及び埼玉産の出荷が引き続き平年よりやや少なめの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		336.04	640	828	417.58	617	・80t (55%)	徳島(33), 長崎(13), 香川(12), 和歌山(11)		
根菜類	ごぼう	295.68	288	346	335.74	404	・92t (75%)	青森(55), 茨城(17)	↘	青森産は、降雪による収穫遅れが発生しているが、全体量は確保されており、太物率も上昇していることから、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。茨城産は、現在主流の露地作の生育は順調で、病気の発生もみられず、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産及び茨城産の出荷が平年並みに回復又は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		182.97	203	294	188.58	206	・89t (78%)	茨城(57), 青森(12)		
	かぶ	124.64	202	237	152.30	281	・215t (68%)	千葉(90)	→	千葉産は、昨秋以降の天候不順により肥大不足となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
132.52	244	270	137.79	294	・23t (35%)	徳島(44), 福岡(30)				

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について

貿易統計によると、平成29年11月の生鮮野菜の輸入量は、6万6千トン(前年同月比79%)であった。また、輸入量の多い加工野菜は、1.6万4千トン(同106%)であり、野菜全体では、2.3万トン(同96%)とやや減少した。

このうち、中国産の輸入数量は合計で12万9千トン(同91%)と、輸入量の56%を占めた。

11月の生鮮野菜の輸入量は、4か月連続で対前年を割り込んだ。これは、平成28(2016)年は台風などの天候不順により、たまねぎやにんじんといった輸入量の多い品目の輸入が増えた一方、平成29(2017)年はこれらの品目の作柄が良く、加工業務用に割安な国産を仕入れる動きが強まったと考えられる。

またジャンボピーマンは、平成29年の秋の天候不順による国産の作柄不良により、輸入を手当てする動きが強まったとみられることや、平成28年には韓国の天候不順による韓国からの輸入量の減少があり、前年比が増加した。

○輸出について

11月の輸出量は、野菜全体では5,515トンと、前年同月を大幅に上回った(前年同月比151%)。生鮮野菜が4,218トン(同168%)、加工野菜が1,296トン(同113%)と、どちらも前年同月をかなり大きく上回った。

なお、輸出量が前年を大幅に上回ったたまねぎについては、国産の豊作基調に加え、韓国等が不作で、海外からの引き合いに応じたことから、増加したとみられる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成29年11月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年11月		平成29年1～11月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同期比		
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	65,603	79	779,076	99
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	164,052	106	1,727,973	107
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	229,655	96	2,507,049	105
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	128,966	91	1,284,082	104
中国産シェア	53		52		56		51	

主な生鮮野菜の輸入先(平成29年11月)

	輸入合計							
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	22,143	96	中国	21,333	米国	799	オランダ	12
にんじん	8,427	59	中国	8,345	豪州	76	米国	6
ねぎ	6,166	104	中国	6,166				
ごぼう	5,321	94	中国	5,277	台湾	44		
かぼちゃ	5,100	100	メキシコ	4,167	ニュージーランド	884	トンガ	48
ジャンボピーマン	4,108	146	韓国	3,569	ニュージーランド	458	オランダ	80
にんにく	1,811	90	中国	1,681	スペイン	114	米国	15
キャベツ	1,549	17	中国	1,521	豪州	17	米国	11

同(平成28年11月)

	輸入合計							
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	23,068	中国	21,549	米国	1,508	韓国	12	
にんじん及びかぶ	14,172	中国	12,902	豪州	1,198	ニュージーランド	50	
ねぎ	5,939	中国	5,939					
ごぼう	5,668	中国	5,656	台湾	12			
かぼちゃ	5,083	メキシコ	2,868	ニュージーランド	1,422	トンガ	760	
ジャンボピーマン	2,805	韓国	2,088	ニュージーランド	588	オランダ	129	
にんにく	2,020	中国	1,881	スペイン	126	米国	11	
キャベツ	8,888	中国	1,317	スペイン	161	米国	13	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成29年11月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年11月		平成29年1～11月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同期比		
生鮮野菜	22,992	240	31,867	139	4,218	168	19,871	76
加工野菜	9,510	121	11,101	117	1,296	113	10,858	110
野菜合計	32,502	186	42,968	132	5,515	151	30,729	85

主な生鮮野菜の輸出先(平成29年11月)

	輸出合計							
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ及びシャロット	3,414	172	台湾	1,729	韓国	1,620	ロシア	48
ながいも	378	164	米国	172	台湾	167	シンガポール	36
きのこ(その他、はらたけ属以外)	105	86	台湾	64	香港	23	タイ	7

同(平成28年11月)

	輸出合計							
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ及びシャロット	1,983	韓国	1,078	台湾	881	中国	24	
ながいも	231	台湾	126	米国	85	シンガポール	19	
きのこ(その他、はらたけ属以外)	122	台湾	93	香港	16	タイ	10	

同(平成27年11月)

	輸出合計							
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ及びシャロット	1,747	台湾	1,212	韓国	532	香港	2	
ながいも	514	台湾	255	米国	208	シンガポール	49	
きのこ(その他、はらたけ属以外)	133	台湾	68	香港	44	タイ	15	

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。